

方々と連携を図り、生涯教育に役立て
人生の生き方教育に一步迫りたいと考
えて研究に取り組んだ。

五 研究の実践

(1) 授業研究部

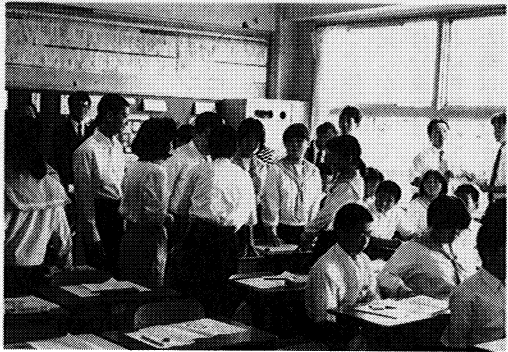
① 研究のねらい

研究主題に迫るためには、学校教育
活動全般、更には、日常生活における
道徳教育が、それぞれの特質に応じて
行われなければならない。授業研究部
では「道徳の時間」を充実したものに
し、内面的なものである道徳的心情、
判断力、実践意欲および態度の向上を
目指した。

② 実践内容

ア. 全体計画と年間指導計画の改善

教育目標の具現化を図るため、道徳
教育との関連や焦点化を図り、重点目



授業の中でのグループの話し合い

標、努力目標、評価の観点を一覧表に
して研究を進めた。さらに、各領域等
の重点指導内容を明確にし、指導の一
貫性も図った。また、道徳教育は、家
庭・地域社会の協力が特に必要である
ため、家庭・地域社会との関連を全体
計画に取り入れ、充実した道徳教育が
なされるように工夫した。

イ. 展開の主要の作成

授業展開のおおよその見通しを立て
ることとした。特に工夫した点は、他
領域、家庭・地域との関連について記
入したり、授業の実践状況、反省の欄
を設けたりし、次年度の授業に生かせ
るようにしたことである。

ウ. 指導過程の工夫

指導過程は、本来、各学校や一人一
人の教師が、学級の実態や主題に応じ
て、自らの工夫によって構成するもの
である。本校では、独自の基本過程を
作成し、主題のねらいを生徒一人一人
が自主的に自覚、追求し、内面化が図
れるような指導過程にした。特に展開
では、価値の追求、自己を振り返らせ
る部分を必ず取り入れた。さらに、家
庭との連携を図るための配慮事項を設
け、指導の手だてを明確にした。

エ. 資料の活用と吟味

年間指導計画においては、資料とし
て読み物資料を扱うことを中心にしな
がらも、学級、生徒の実態に応じて、
別な資料を使用することができるよう
にした。各学年で、ねらいに迫る資料
かどうか検討する時間を設けて毎時間



摘花作業をする生徒たち

の資料分析をし、研究を深めたり指導
の技術向上に努めたりするようにした。
これら資料分析したものを、資料活用
保管ボックスに保管し、だれでもが活
用できるようにした。

オ. 自作ノートの活用と板書の工夫

生徒の道徳的価値を深めたり、道徳
の時間の指導の効果や生徒の実態を知
る手がかりを得るため、ノート指導を
積極的に行った。また、価値の追求を
行う時の手段としたり、興味、関心を
失わずに授業に集中させたりするため
色チャートの活用、文字や絵画カード
の活用など板書の構造化を図った。

カ. 授業研究による授業の充実

毎月一回の授業研究により、指導技
術の向上と研究のねらいに迫るための
実践に取り組んだ。授業後は、研究協
議会を開き、反省と研究の進め方を討

議し、共通理解のもとに指導できるよ
うにした。

(2) 実践指導部

① 研究のねらい

道徳の時間で培われた道徳的心情、
判断力、実践意欲など道徳的実践力を
基盤としながら、児童一人一人が、実
際の生活で実践しようとするものが重
要である。本校では、この道徳的実践
力を行為にまで高めるため、日常活動
や体験活動に重点をおいて指導を加え
ていくことにした。日常活動において
は、学校生活全般にわたって道徳性を
育成し、体験学習を通してより一層、
確かなものとなることを目指した。

② 実践内容

ア 日常生活における道徳性の育成

日常生活における道徳性を育成する
ために、次の事項を実践した。

- 基本的なことを身に付けさせるた
めの『学習態度の基本十か条』の作
成

- 自己の反省や生徒の内面を知るた
めの生活ノートの活用

- 生徒の実態を把握するための『サ
ポートカード』の活用

- 発表力をつけるための、短学活時
の一分間スピーチ

- 主体的に取り組む生徒会活動の工
夫

イ 道徳的体験活動の設定による道徳